

ThinkFlood、初のAndroid向けユニバーサルリモートシステムを発表

長らく期待されていたAndroidフォンやタブレット向けのRedEyeソフトウェアのベータ版が、本日から使用可能に

米国マサチューセッツ州ウォルサム--(Marketwire - 2011年5月17日) - ThinkFloodは、数々の賞に輝くRedEyeコントロールを、Androidフォンおよびタブレット互換とする新しいアプリを、本日発表しました。新しいAndroid向けRedEyeアプリは、無料で <http://thinkflood.com/support/redeye/android-beta/> からダウンロードできる公開ベータテストプログラムの一部として、利用できます。

2009年6月2日に、ThinkFloodは、他社に先駆けて初めて、iOSデバイス向けユニバーサルリモートシステムを発表しました。企業代表は、過去数か月に、製品に対してリクエストのあった機能のトップは、Android互換性だったと述べています。

「RedEyeは初めから、iPhoneを持っている方たちに人気がありました。Androidの人気が出るにしたがって、このプラットフォームで弊社ソフトウェアを使いたいというリクエストも、同じように増えてきました。」と、ThinkFlood社長兼共同設立者のMatt Eagarは述べました。「本日、弊社のネット対応RedEye製品が、Androidスマートフォンとタブレットを使って、完全にコントロール可能となったことを、発表いたします。」

Android向けRedEyeアプリのベータ版は、ネット対応RedEye製品(RedEyeおよびRedEye Pro)と互換性があり、タブレット用Honeycomb (3.0)などの、Android OS 1.6以降で実行されるデバイスをサポートします。RedEyeのお客様は、Androidフォンとタブレットを、iOSデバイスやPCと一緒に使って、RedEyeシステムをコントロールできるようになりました。現在は、RedEyeハードウェアの構成にはまだ、iOSデバイスが必要ですが、Android端末からの設定実行機能も、今後のバージョンで追加される予定です。

「Androidプラットフォームによってもたらされる選択肢の多さと柔軟性はたいへん魅力的ですが、このような機会は、同時に課題への挑戦でもあります。」と、Eagarは続けました。「特に、端末とオペレーティング・システムのバージョンがあまりに多いために、事実上、すべての構成をテストすることは不可能です。そのため、アプリをシンプルに保ち、ベータ版を最初にリリースすることにしました。ベータ版をテストしてくださった方からのフィードバックを集めれば、端末の互換性について、さらに確証を得ることができ、もっと進んだ機能を組み込んで、Androidアプリを、現在のiOSアプリの全機能と同等にすることができます。」

Android向けRedEyeアプリは、先日ThinkFloodが発表した第2世代のコントロール製品に続くものです。先月、同社は、安価なプロ品位のネット対応ホームオートメーションコントローラの、RedEye Proをデビューさせました。また、オリジナルのWiFi RedEye製品の更新版も発表しました。

ThinkFloodについて

ThinkFloodは、コントロールシステムのハードウェアとソフトウェアの設計・開発をしています。スマートフォン、タブレットおよびPC向けの、受賞歴のあるRedEyeプラットフォームには、従来は数倍もの価格がかかっていたコントロール製品でしか提供できなかった機能が搭載されていま

す。ThinkFloodは、株式非公開会社で、本社は米国マサチューセッツ州ウォルサムにあります。
詳しくは、<http://thinkflood.com>をご覧ください。

お問合せ先:

April Mendez
ThinkFlood, Inc
april.mendez@thinkflood.com
617-299-2000 x1005